

山形県民の歌「最上川」

「最上川」昭和天皇御製 島崎赤太郎／作曲

広き野を ながれゆけども 最上川
うみに入るまで にごらざりけり

この歌は、昭和天皇が、1925（大正14）年に山形県においてにられてご覧になった「最上川」の様子を、その翌年1926（大正15）年の「うたかいはじめ歌会始よ」においてお詠みになられたものです。1930（昭和5）年にいたって、宮内庁の許可を得て、東京音楽学校（現在の東京芸術大学）の島崎赤太郎教授が作曲し、以来、県民に親しまれてきました。その後、1982（昭和57）年3月31日「山形県民の歌」に制定されました。



昭和天皇の歌碑 酒田市日和山公園
(平成27年2月5日 山形新聞)



Yamagata Prefecture has the local people's song "Mogamigawa" (The Mogami River). It says:

"Although the Mogami River runs through wide fields;
It does not get muddy until it reaches the sea."

The words of the song were written by the Showa Emperor in 1926. The composition follows the style of *tanka*, traditional Japanese short poems. A *tanka* consists of five lines of 5, 7, 5, 7, and 7 syllables.

The Mogami River is known as the "mother river" of Yamagata Prefecture because it flows throughout all the prefecture's lands, and the song expresses the leisurely way it flows.

Both Matsuo Basho, a famous *haiku* poet in the Edo era, and Saito Mokichi, a poet born in Yamagata Prefecture, loved the river and composed poetry about it.

◇和歌や俳句に詠まれた最上川

「最上川」という言葉は、古くは、特定の連想（イメージ）をうながす言葉としての地名である「歌枕」として詠まれることがほとんどでした。その最初に出てくるのが『古今和歌集』です。

「もがみ川 のぼればくだる いな舟の いなにはあらず この月ばかり」『古今和歌集』（詠み人知らず）

農民たちの一年の労働が終わろうとしている明るい生活を背景として、若い男女の恋の語らいがうたわれています。男の求婚に対して、いなにはあらず（いやではない）のだと、はっきり言い、この月ばかり（今月だけは待ってほしい）と応えているのです。収穫期の緊張感、「のぼればくだる」という動的な情景など、一首に若々しい生命を与えています。

西行も歌枕として詠んでいます。

「つよくひく 綱手と見せよ もがみ川 その稲舟の いかりをさめて」 『山家集』（西行）

その後、山形県民の歌「最上川」になった昭和天皇の和歌や、最上川を愛し詠った斎藤茂吉の和歌は実際の最上川を見て詠んでいます。

俳句の世界でも、最上川は松尾芭蕉や正岡子規に詠まれています。

「五月雨を あつめて早し 最上川」
『おくのほそ道』（松尾芭蕉）

「ずんずんと 夏をながすや 最上川」
『はて知らずの記』（正岡子規）

山形県民の歌

最上川

昭和天皇 御製
島崎赤太郎 作曲

♩=76 堂々とよみなく

ひろ一き野をなが一れゆ一けどもも
がみが一わもがみが一わうみに入
るまでに一らざりけりに一らざりけり

コラム 1 「最上川」を演奏する山形交響楽団



創立名誉指揮者である村川千秋の「ふるさとの山形にオーケストラを」の情熱の下、1972（昭和47）年1月に発足。県下企業の支援を得て、演奏レベルの高さでは全国的にも定評がある楽団に成長しています。現在、定期演奏会、庄内演奏会、モーツァルト演奏会、自主演奏会の他に、年間30回の依頼演奏会、約100回のスクールコンサートなどの演奏活動を東北6県、新潟を中心に実施しています。また、山響の特徴として、楽団員により室内楽活動が活発に行われています。



紅花の山形「花笠踊り」



『花笠音頭（花笠踊り唄）』は、山形県の花笠まつりで歌われる日本の民謡で、「ヤッショーマカシヨ」の合いの手でおなじみです。起源は諸説ありますが、大正中期に尾花沢で土木作業時の調子あわせに歌われた土突きがルーツとされます。昭和初期に民謡化され、「花笠音頭」または「花笠踊り唄」として広まりました。

花笠まつりは山形県の山形市、尾花沢市、天童市、鶴岡市、上山市など各市で8月頃に行われるほか、10月上旬に静岡県伊東市で「伊東温泉花笠踊り」として開催されています。



The Tohoku region, located in northern Japan, becomes lively with festivals when summer comes around. So does Yamagata Prefecture. Among the many festivals in Yamagata Prefecture, the Hanagasa Festival, a flower hat dance festival, is one of the most famous. In the Hanagasa Festival, dancers dance in lines with a flower hat in their hands. Every year many visitors both from all over Japan and from abroad come to the festival, held in early August.

The festival is held not only in Yamagata City but also in Obanazawa City, Tendo City, Tsuruoka City, and Kaminoyama City. It is said that Obanazawa is the birthplace of this festival. The festival is enjoyed by many people in the prefecture, from children to the elderly.



コラム② 花笠踊り発祥の地「徳良湖」

花笠踊りは、田植え踊りを元に、菅笠に紅色に染めた紙を結びつけて花笠を作り、振ったりまわしたりして景気をつけたのが始まりと言われています。踊り方は地域によって異なり、10種類余りのさまざまな踊り方ありましたが、1963（昭和38）年に、誰でも踊ることができるようにと、新しい振り付けの「正調花笠踊り～薫風最上川～」（女踊り）が誕生しました。男踊りといわれる「正調花笠踊り～蔵王暁光～」が誕生したのは1998（平成10）年と、ずっと新しい踊りになります。

また、花笠踊り発祥の地である尾花沢地方に伝わる俗に「笠回し」と言われる踊り方は、徳良湖の灌漑用水池工事で歌われた土突き作業の後ろで、笠をおおいで風を送るしぐさが原型とされています。



花笠踊り原型の築堤時の作業の様子



薫風最上川

蔵王暁光

花笠踊り

山形県民謡／編曲・寛 哲郎

揃^ろろた揃^ろろたよ 笠踊り揃^ろろた
 秋の (チヨイチヨイ)
 出穂^いよりまだ揃^ろろた
 (ハア ヤッショウマカシヨ)

花の山形 紅葉^{あき}の天童
 雪を (チヨイチヨイ)
 ながむる尾花沢
 (ハア ヤッショウマカシヨ)

おらが在所へ 来てみてしやんせ
 米の (チヨイチヨイ)
 なる木がおじぎする
 (ハア ヤッショウマカシヨ)

目^め出度目^め出度の 若松様よ
 枝も (チヨイチヨイ)
 栄えて葉も茂る
 (ハア ヤッショウマカシヨ)

そ ろ ろ た そ ろ ろ た - よ か さ お ど - - り
 そ - ろ - - - た - - あ き - - - の チ ヨ イ チ ヨ イ
 で ほ - よ - り - - - ま だ そ - ろ -
 た - ハ ア ヤ ッ シ ョ ウ マ カ シ ョ



山形県スポーツ県民歌「月山の雪」

山形県スポーツ県民歌は、1948（昭和23）年に「第32回全日本陸上競技選手権大会」の本県開催を契機に、戦後の復興とスポーツを通して県民の意識を鼓舞するために制作されたもので、同大会開幕式で披露され、その後、数多くのスポーツ関連行事で歌われてきました。

この歌を、2014（平成26）年2月開催の第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会「やまがた樹氷国体」の開始式で演奏するため、明るくさわやかでシンプルな行進曲風に編曲しリニューアルしました。学校の運動会等の行事や、各競技団体、地域のスポーツ大会等で子どもから大人まで幅広い世代に親しんでいただき、永く未来に受け継いでいきたいものです。



“Gassan no yuki, kurenai somete...” (The snow on Mt. Gassan glows red...)

Yamagata Prefecture has a song called “Gassan-no-Yuki” (Snow on Mt. Gassan), which is sung at sports events. It is a very cheerful and encouraging song.

There are three professional sports teams in Yamagata Prefecture: Montedio Yamagata, a soccer team; Passlab Yamagata Wyverns, a basketball team; and Prestige International Aranmare, a volleyball team.

Especially when the supporters cheer Montedio Yamagata, all of them sing “Snow on Mt. Gassan,” and their voices become a loud chorus in the stadium.



山形県のプロスポーツ

パスラボ山形ワイヴァンズ

パスラボ山形ワイヴァンズは、山形県を本拠地としてナショナル・バスケットボール・デベロップメント・リーグ（NBDL）に参加の男子プロバスケットボールクラブチームです。

「パスラボ」は、「人から人へのパスを開発する研究所」という意味で、チームマインドとしています。人から人へのパスを繋げることで、チームの勝利だけでなく、チームと地域の連携・交流を作り出したいという精神も込められています。

「ワイヴァンズ」は、古の伝説のドラゴン「Wyvern（ワイバーン）」で、チームが目指すチームスタイル、ドラゴンのように冷静に状況判断しながら、力強く攻撃するチームを目指しています。



Aranmare（アランマーレ）

プレステージ・インターナショナルアランマーレは、酒田市を活動拠点とする女子実業団バレーボールチームです。



Aranmare（アランマーレ）は、コーポレートカラーから太陽の光を浴びて育つオレンジ（arancia）と海（mare）に面した地域性をイメージし、明るく笑顔があふれるチームで地域を元気にしたいという想いを込めて名付けられたものです。

アランマーレは、バレーボールの“強さ”だけではなく、“人間力”も兼ね備えた『善くて強いチーム』を目指しています。スポーツ教室の開催など地域に根差した活動を行い、地域のみなさまに愛され、共に成長できるチームとなるように活動しています。

山形県スポーツ県民歌 月山の雪

作詞：西条八十
作曲：古関裕而
編曲：仁藤雄資



一、
月山の雪 紅ぞめて
朗らかに明けゆく 新生日本
興すは力 若き力
今さきかけて 我ら起つ
スポーツ山形
フリーフリーヒップヒップフリー

二、
必勝の意気 高鳴る胸に
輝くグラウンド 旗は招くよ
溢るる生命 若き命
いざ全力を あげて往け
スポーツ山形
フリーフリーヒップヒップフリー

三、
栄冠目指し 正しく剛く
闘う気迫ぞ 祖国の柱
鍛えん明日に 強き明日に
ああ逞しの 健康美
スポーツ山形
フリーフリーヒップヒップフリー

四、
勝ちどきの歌 とどろくところ
誉れに沸きたつ 最上の流れ
振えやチーム 若きチーム
ああ山形の 大チーム
スポーツ山形
フリーフリーヒップヒップフリー



モンテディオ山形

モンテディオ山形は、山形市、天童市、鶴岡市を中心とする山形県全県をホームタウンとする日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟するプロサッカークラブです。「MONTEディオ」のMONTE（モンテ）は山を、DIO（ディオ）は神を意味し、全体の意味は「山の神」となります。この由来は、山形を代表する霊山としての出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山）にちなんだものとなっています。また、「MONTEディオ」には、意味的に「神秘的郷 山形」を表現するだけでなく、山頂すなわち頂点を目指して戦うチームになってほしいという多くの県民の夢と希望が込められています。



©MONTEディオ YAMAGATA

